



発行所
 日本聖公会 東北教区
 仙台市青葉区国分町2-13-15
 TEL 022-223-2349
 FAX 022-223-2387
 振替 02210-6-2902

シリーズ「東北の信徒への手紙」

365日が祭り

司祭 パウロ 渡部 拓

少し季節外れの話題なのですが、先日あるインターネット番組を視聴していた時に、ある社会学者の方が、日本の「お祭り」について面白いことを述べていました。そこでは「日本のお祭りとは、元

来自然信仰から始まっている訳ですが、何故そのようなお祭りが連続と続いているのかというと、お祭りという行為によって人間が正気を保つためであるから。」とし、人間は古代から現代に至るまで、常に神の領域（自然）を侵し続け、破壊し続けている、自然を神としつつもそれを壊している



現実がある。そんな自分たちの現実を一度意識してしまうと、その罪悪感と葛藤から人間は正気を保てなくなり、ついには利他的に「自分さえ（人間さえ）良ければ」という思考に囚われ暴走を始めてしまう。そこにストップを掛

けるために年に一度祭りをを行い、自分たちの全てを献げる気持ちで神々を祀る、その瞬間だけは全てを神に委ねてその裁きすら受け入れる覚悟をもってお祭りをする。そうす

ることで自分たちの罪悪や葛藤と折り合いをつけて、正気を保つて生活を続けることが出来るようになるという考察でした。

中々面白い考察だなと思う一方、その「お祭り」の性質は、私たちとは正反対でもあると

も感じました。私たちキリスト者がいう所の「祭り」とは、祈禱書の聖餐式中で「み子が再び来られるまでこの祭りをを行います。」とあるように、聖餐式を代表とする日々の祈りであり、神の国を実現するための献身、宣教そのものであると私は思います。それは日曜日だけでも52(53)回あり、さらに日々の祈りや聖書を開く時、宣教者として生きる生活を考えれば、それは一年365日の時を占めるものである。そしてその「祭り」は、むしろ自分たちの罪深さを「忘れるため」でなく、「記憶し続けること」、そして自身を神の国のために「献げ出し続けること」を私たちに求めます。また「折りが良くて悪くても励みなさい」(テモテII 4:2)と教えられている通り、私たちの「祭り」という名の祈りと宣教は、自分の都合で止るものでも、止めて良いものではなく、まさに「年に一度」ではなく「常に」であり、そこにある働きも正反対であるのです。

さえ弱い私たち人間は、その突きつけられる罪、担わされた任務、献げることへの躊躇で潰れてしまいたいようになる。でもそこに私たちの「祭り」と日本の「お祭り」の決定的な違いとして、ともに歩くイエス様がいることが見えてくるのです。人間では耐えられない罪も、不可能な献身も任務も、共にイエス様が担ってくださると知るときに、私たちが続ける「祭り」は一時の贖罪でも重荷でもなく、喜びを伴う救いと希望の発露であることが分かります。

あるいはそれは、分かりやすく「楽になる」といった救いとは違うかもしれない。しかしこの「祭り」を献げ続けることは、真の救いになる、人にとつても世界にとつてもその場しのぎではない救いであり、前進となるでしょう。現在の私たちを取り巻く状況は、決して易しいものではないかもしれませんが、この「祭り」を一人一人が「献げ続ける」ことで、イエス様と共にある私たちの道は開けていくと信じています。

(福島聖ステパノ教会 副牧師)

教区修養会

「2019年東北教区修養会に参加して」

福島県ステパノ教会

イサク 鈴木 寛

今年度の修養会は「私たちの『ミッション・ステートメント』」と題し、昨年の教区会において報告された「宣教方針（ミッション・ステートメント）案」を共有する会となりました。2日目の討議では「ワールド・カフェ方式」の手法で行われ、話し手の意見を遮らず、耳を傾ける中で、様々な思いが語られました。多くの信徒が参加された修養会は「み言葉の礼拝」をお捧げし、無事に終えることができました。

私は遠方の福島県からの参加でしたが、道中天候や交通事情にも恵まれ開会時刻に無事間に合い、開会礼拝以降の一連のプログラムに参加出来ました。ミッション・ステートメント紹介の中では「献げ出す」「開く」の意義について五千人の給食、ハチドリのひとつとしく、イエスの奇跡を例にした説明がありました。

(編集部)



かったです。(以下発言要旨)

・初訪者対応をもっと工夫して丁寧にした方が良く

・来訪者の体験学習が仏教等の他宗教と比較して少ない感じがする

・教会施設の地域への開放を推進すべき

・教会の扉は出来るだけ開いていた方が良く

・どうしても信徒同士で内向きになりがちなので

・もっと外に向かって開くべき

②幼稚園との関係を引き続き重視すべきという意見が多かったです。

・幼稚園関係者とのつながりを深めるべき

・教会が幼稚園を支えるの

が本来の姿だが逆になっ

ている例が見受けられる
③その他にも教会をより良くするための多くの意見が出ていました。

・将来を担う若者の意見をもっと重視すべき

・教会をもっと知ってもらうためには活動内容を含む情報をネット掲載することが必要

・未洗礼の方への対応を丁寧にした方が良く

・以前教会に来ていたが現在足が遠のいている方々への対応を検討すべき

・クリスマスやイースター等のビッグイベント以外にも出来れば多くの方に来てほしい

・男性の聖書勉強会が必要ではないか

・教会を相互に訪問することも重要だと思

・教会委員会の意識改革や研修が必要と思

・改めて教会生活の目的を考えてみたい

・出来る人が出来る時に出来る事をしようという合言葉は今一度よく考えて

みたい

参加者の意見を聞いて感じたことは、宣教方針が立案された際に挙げられた大きな課題すなわち信徒数の減少、教役者の不足、財政逼迫等は未だ克服されていない状況下であつても、各教会の信徒が問題意識を深めること、現時点で考えられる地道な対応を探ることの重要性です。

とは言つても一朝一夕で結論でない課題が多いのも事実です。しかしこうした討議を通じて少しずつであつても課題解決に向けて前進していくことが出来るものと感じました。

最後に今回の教区修養会の準備・運営を担当された弘前昇天教会の皆さまのご尽力に感謝いたします。



「第5回 被災地巡りツアー」に参加して

盛岡聖公会 仁王幼稚園教諭 澤口 香

去る8月31日、私は「第5回被災地巡りツアー」に参加させて頂きました。私が釜石出身ということをご存じだった林司祭様が誘って下さったのです。

教会前に集合すると被災者支援プロジェクトの渡部さんが笑顔で

迎えて下さいました。

盛岡聖公会からは8名の参加で

盛岡駅から仙台から来られるプロジェクトリーダーの加藤主教様、

仙台聖フランシス教会・青森聖アンデレ教会の信者さんと合流し出発しました。被災地の案内役として釜石神愛教会、高橋神愛幼児学園園長先生との総勢14名のツアーでした。車中では自己紹介とツアーに参加するにあたっての思いを発表し、

持ち寄りのおやつを分けあい、ほんわかとした雰囲気です。少し緊張気味で参加した私はほっとすることができました。

私は生まれも育ちも釜石ですが、震災の時、両親はすでに釜石を離れていましたし、夫の両親も海から遠い地域だったので家を無くす等の被害は受けていません。その後、夫の両親も盛岡にきたため釜石にはお墓参りに行く程度でゆつくり過ごすこともありませんでした。被災した友人に何をしたらよいのか、何かしてもそれは余計なことなのではないか：と思う8年でした。近くて遠い故郷と感じていたのです。ですからちよっと緊張していたのだと思います。今回参加の皆さんが大槌・釜石のために祈って下さることに、そして一緒にお祈り出来ることに感謝の気持ちでいっぱいでした。

最初は大槌町文化センター「おしゃち」へ行きました。「おしゃち」では被災された

方たちのDVDを見せて頂きました。その中では大変だった震災そのものよりも、これからどうしたら良いかということが語られており、力強ささえ感じました。



大槌町文化センター「おしゃち」

その後釜石鶴住居「いのちをつなぐ未来館」へ行きました。そこでは多くの語り部さんたちが研修をしていました。それぞれの場所で多くの人が未来のために活動を続けておられることを知りました。

釜石は今年『ラグビーワールドカップ』開催ということで、広場には私の大好きな虎舞の絵が描かれた大きなラグビーボールが飾ってあり、街中が希望に溢れていて心が明るくなりました。食後「祈りのパーク」で礼拝をしました。多くの方が亡くなられた場所で、思いを寄せることしか出来ない自分と向き合えたこの時間は、とても貴重な時となりました。バスの中から見た、よく泳ぎに行った美しい青い海。これからは美しいままでいてね：と心から願った一日でした。

東日本大震災被災者支援プロジェクト「9月の報告」

〔新地町広畑お茶会〕

27日に開催。地域からの参加者10名、仙台等からスタッフ8名が参加。

〔水曜喫茶〕

4日と18日に開催。4日は東京方面、神奈川のエリアバス・サンダースホームの関係者等、来客9名、地域から9名、スタッフ4名で賑やかに。18日は地域から6名、スタッフ4名。

〔お買い物支援〕

毎週木曜日午前中に定期的に開催。毎回平均4〜5名の参加。

〔訪問者〕

前記の水曜喫茶参加者の他に、30日に東京教区・インマヌエル新生教会から8名の訪問者があり、閑上方面、新地方面を案内した。

〔学び〕

プロジェクトとして活動すると同時に、原発・放射能に関する自分たちの学びを深めるため、プロジェクト会議において「原発のない世界を求める国際協議会」声明、同協議会における相澤牧人司祭の発題文書を読み合わせた。

常置委員会報告10/4開催

1. 第102（定期）教区会関連事項
常置委員会報告、儀礼議案、常置委員会提出議案について、その内容、進捗状況について確認。教区業務組織及び業務分掌規程の見直しについて、その收拾時期を本教区会とせず、第102定期教区会常置委員会に作業を申し送ることを確認。

2. 宣教強化資金融資案件について
同グループより諮問のあった案件について、常置委員会としての見解を確認。

「信徒の召命 聖職の召命」研修会 【再発見！！】 祈禱書に見る信徒の働き

日時 12月7日(土) 10時半～15時半
場所 仙台聖フランシス教会
講師 笹森田鶴司祭(東京教区・管区礼拝委員)
参加費 1,000円(昼食代込み)
*詳細は案内書をご覧ください。

奉仕職養成委員会

日本聖公会人権セミナーに 参加して

東北教区人権担当 司祭 ヤコブ 林 国秀

9月4日から6日の日程で、熊本聖三一教会を主会場として日本聖公会人権セミナーが行われました。「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」(ロマ12・15)の聖句のもと、ハンセン病患者の皆さんに対する差別、偏見と抑

圧の歴史を見つめ、人権をテーマに学びました。全国からスタッフを含めて35名、東北教区から2名が参加しました。さて、今回のセミナーは、映画「新・あついで」の視聴から始まり、2日目は合志市にある国立療養所菊池恵楓園を訪ね、施設見学や自治会長さんによる講演会、そして菊池黎明教会の皆さんと交流の時を得ました。その後熊本市内に戻り、リデ

ルの歴史、偏見と抑圧の歴史を見つめ、人権をテーマに学びました。全国からスタッフを含めて35名、東北教区から2名が参加しました。さて、今回のセミナーは、映画「新・あついで」の視聴から始まり、2日目は合志市にある国立療養所菊池恵楓園を訪ね、施設見学や自治会長さんによる講演会、そして菊池黎明教会の皆さんと交流の時を得ました。その後熊本市内に戻り、リデ

ル、ライト、ノット女史により日本で初めてハンセン病患者救済を目的として設立された回春病院の跡地にある、リデル、ライトホームと施設内にある降臨教会を辿り、学びの一時を得ました。

リデル女史は英国から来日間もない1891年春に訪れた熊本の本妙寺で、桜の木の下で蹲るハンセン病患者の姿を見て、生涯かけてこの方々と生きようと決意します。

それからリデルの思いは国をも動かし、大隈重信から「政府がこの問題に乗り出す」ことを伝える書状を受け取るに至ります。リデルたちの思いは、一貫して患者の救護であって、国も当初その方針でしたが、その後国の政策は強制隔離へと変貌し、患者から人として生きる権利を奪い

ました。当時ハンセン病は不治の病とされて人々から恐れられ、患者は、国の建てた療養所とは名ばかりで警察OBが所長を務め、高い塀に囲まれた強制収容所に、法の下連行されました。その人権侵害の歴史は1998年に当時松丘聖ミカエル教会の信徒代議員

であったヨハネ藤崎陸安兄が執筆され、東北教区宣教部から出版した「ハンセン病の歴史とらい予防法」に記されています。藤崎氏は「教会は私たちの命を救ってくださったが、人権回復までには至らなかったことを覚えて欲しい」と語られましたが、私たちはこの証言を真摯に受け止め、忘れてはなりません。

ハンセン病は、病原菌の発見(1873年)によって毒性が弱いこと、また感染しても発病することは極めて稀であること、そして特效薬が開発(1943年)されたことにより確実に治癒します。にもかかわらず、日本社会では2006年まで差別法である「らい予防法」が存続しました。日本聖公会はその反省の上に立ち2016年に開催した日本聖公会第62(定期)総会においてようやく「ハンセン病回復者と家族の皆さまへの謝罪声明」を決議しました。私たちは「ごめんなさい」しかできない弱い人間かもしれないが、しかし「謝罪」をしたからもう良いのではなく、やはり、償いの気持ちも含め、

より一層、平均年齢85歳となられた元患者の皆さんに寄り添い、共に歩もうということをおのこの人権セミナーで学ばせていただきました。最後に元患者の方からいただいた言葉を紹介します。「ハンセン病問

題と言われるが、ハンセン病が問題なのではなく、これはあなたの心の問題です」。第2のハンセン病問題を決して起こさないためにも、主のみ跡に従い歩むことが強く求められています。

奉仕職養成委員会より

冊子 「せみなりお 青葉」

シリーズの紹介

今年5月に「せみなりお 青葉」シリーズとして『み言葉の礼拝』等での信徒の勧話についての13話「信仰の仲間として励まし合うために」(加藤博道主教著)が刊行されました。各教会の教役者、信徒奉事者、教会委員の皆様

に配布させていただきました。み言葉の礼拝は信徒が主体で献げる主日礼拝です。その中で「勧話」は難しいという声を耳にします。大変なこととは思いますが、この冊子を参考にしてください。牧師を交えて話し合うきっかけとしていただければ幸いです。冊数が必要な時は、教区事務

所にお問い合わせください。「せみなりお 青葉」の名称は、かつて東北教区の働きとして女性伝道師、保育者を養成していた「青葉女学院」からいただいています。その設立精神を受け継ぐ働きとして、吉田雅人教区主教がシリーズ1の巻頭に「信徒と聖職がともに神と人とに仕えるために」整えられていく一助となること」と書かれています。その働きを進めています。私たちにどのような働きが必要なのかは、もちろん委員会の中だけで見つけられるものではなく、教区の信徒・教役者の皆さんからの声が大きな助けです。どうぞよろしくお願いいたします。「せみなりお 青葉」シリーズは、第2巻発行に向けて鋭意準備中です。

冊数が必要な時は、教区事務所に問い合わせください。

冊数が必要な時は、教区事務所に問い合わせください。



わたしの道の光

信仰生活で 大切にしていること

盛岡聖公会
エリサベツ 根田 豊子

私は長く、
難病患者の
方々を支え
る仕事に就
き、今も働

きに加えていただいています。
2012年7月に岩手県難
病・疾病団体連絡協議会の37
名の方々と年1回の交流会に
参加した時の患者さんのつぶ
やき『私には1枚の卒業証書
もないんだよ』と。北海道に
向かう船の中でしみじみと話
されたIさん。私は学校に行
きたいとずっと思ってきた
よ』とのこと。卒業証書の重
みを実感しました。そこに居
合わせた難病連の私たちは
「盛岡に帰ったら、県立盛岡
となん支援学校の校長先生を
訪問してIさんの入学を是非
実現させましょう。」と気持
ちを一つにして帰ってきました。
学校に入学したいとの強

い希望を初めて聞いた私たち
も夢に向かって行動開始。
Iさんは71才。重いポリオ
で手の不随意運動があり、歩
行もできません。小さい頃は
父親がおんぶしてどこへでも
連れていったとのこと、そ
の積極性はIさんそのもので
す。現在入所している瑞雲荘
は早くに出来たところでもう
40年以上もお世話になり、皆
に支えられ明るく楽しく生活
しています。性格は陽気でお
世話好き、そして頭脳明晰で
す。Iさんに関わっているボ
ランティアさんが沢山おられ
ますが、そのうちの若いボラ
ンティアさんの仲間となり、
結婚させました。東京での結
婚式にもちゃんと参列。もう
お二人の間には小学4年生と
幼稚園の子がおります。強い
向学心に燃えて口に「菜箸(長
い)」をくわえてタブレット
の操作をし、社会とも交流し
ております。また口にくわえ
た編み棒で編み物もしており
ます。先日支援学校の菊池真
実先生が「彼女が口に筆をく
わえてお習字で書いたもので
す。」と大切にしまっていた
一枚の書「心」という一文字
を出して見せて下さいました。

さて！Iさんを「入学させ
てほしい」とお願いし気持ち
よく入学が決まりました。私
たちは色々と入学の準備をイ
メージしながら「赤いランド
セルをみんなでプレゼントし
ようね」と楽しい夢を描いて
いたのですが、小学部からで
はなく中学部からの入学許可
で、赤いランドセルは夢に終
わりました。こうしてIさん
は71才で2013年4月に岩
手県立となん支援学校に入学
できました。中学部を無事卒
業し、引き続き高校生になり、
週3日の訪問授業で3年間の
高校生活も無事終了し、卒業
証書は2枚となりました。現
在78才の元高校生は髪にリボ
ンをつけ睦老人大学で楽し
く学んでいます。
2019年9月15日(日)の
聖書日課ルカによる福音書15
章1節からの林司祭様のお説
教をお聞きしながら、Iさん
の書いた「心」を思い出しま
した。毎日仕事に追われ忘れ
がちなことを、日曜日の礼拝
で聖歌と聖書にふれて心を新
たにしながら教会生活を大切
にし、また難病患者さんたち
との出会いも大切に過ごして
いきたいと思っております。

礼拝堂探検隊

礼拝堂にあるいろいろなもの、
その意味を調べてみました。

(第6回 聖堂-②)



山形聖ペテロ教会(上空から)

日本聖
公会の多
くの聖堂
は、英国
の典型的
な大聖堂
を縮小し、
簡略化し
た構造を
しているものが多いようです。

います。翼廊の部分を小聖堂
として用いている教会もあり
ます。

ネイブ nave というのはラ
テン語のナヴィス(navis・船)
からきた言葉で、教会をこの
世の嵐の中を漕ぎ渡る船にた
とえています。マルコ4・35に
嵐の中、腕枕をして眠ってお
られたイエス様の話がありま
すが、このことを思い起こさ
せません。つまり、会衆席は「救
いの箱舟・安心して居ること
のできる場所」を象徴してい
るとも言えるでしょう。

左の写真は弘前昇天教会の
ネイブから祭壇方向を見たも
のですが、『あけぼの』の誌
面を上下逆にしてみると、
天井部分がなんとなく古代船
(ローマ帝国時代の船)の船
底構造に見えませんか。

(教区主教)

トランセプト tran-
sept(翼廊)と呼び、
縦木の会衆席の部分
をネイブ nave(身
廊)と呼びます。山
形聖ペテロ教会では、
右側のトランセプト
にオルガンを置いて



(弘前昇天教会のネイブ)

北から南から

「北から南から」は今月号より掲載する教会を増やし、これまでより多くの教会の様子をお伝えいたします。

八戸聖ルカ教会

7月21日に、ジャクリン・ピピン司祭(米国)と夫のスコット氏の送別会が行われ、青空の元27名が集いました。彼らとの出会いは3年前、スコット氏の三沢基地転勤に始まり、礼拝を通じて、また幼稚園の英語講師を務めて頂く中、親交を深めてきました。最後となったこの日のハイライトは、ジャッキー先生の日本語での聖餐式とパワフルなスコット氏のスイカ割りーお恵みに感謝!

室根聖ナタナエル教会

教会は気仙沼にほど近く、東日本大震災時には、聖公会関連の学校や団体のボランティア拠点として豊かに用いられましたが、その後、日頃の維持管理が懸案となっていました。

ました。

そのような中、気仙沼で仕事をされる青年信徒が今年4月から教会に居住されるようになり、日々の祈り、掲示板の充実や教会案内の配布などにも協力くださり、近所の方々には夜に明るくなったことでも喜んでいただいています。どうぞ室根をお訪ねください。

能代キリスト教会

能代キリスト教会は、今年度の現在堅信受領者総会で、長年の夢であった台所・トイレの全面改修に踏み切ることとなりました。自己資金と信徒からの寄付に加え、教区の宣教強化資金を申請しています。しかしながら、信徒からの寄付金があと50万円不足しています。教区内の各教会へ援助をお願いしなければならぬ状況です。その節はどうぞ、ご協力をお願いいたします。

仙台基督教教会

教会にはじめて来てくださった方が、再び足を運んでくださることは決して多くはありません。当教会にはじめ

て訪れてくださった方に少しでもご満足頂ければと思い、キリスト教や教会、礼拝についての案内冊子を作製しました。

またサーバー勉強会の後、画像付きのマニュアルを作成し、新しい人も奉仕しやすい環境作りをしました。仙台基督教教会は新しく生まれ変わろうとしています。

若松諸聖徒教会

とっておきの仲間

私たちと毎主日お礼拝に出席している白いブードルックリームをご紹介します。日頃雑事に追われ人との関係に疲れてしまったり、せめて教会では心静かかと思えば其処も意外と忙しい所だったりします。

そんな時、静かに近づいて来てじつと見上げられると言葉なんて必要ない、神様の前では皆平等だと素直に思えます。一番癒されているのは司祭様かもしれません。誰もが集まれる所、ご紹介しませませんか?



「せみなりお 青葉」シリーズ「み言葉の礼拝」等での信徒の勧話についての13話「正誤表」
目次 ii 13行目
正 「白」赤「紫」の期節
目次 iii 6行目
誤 「聖書に語らせる都合よく聖句を用いない」
正 「物語を語る大切さ」
11ページ 見出し
正誤 6. (ピリオドを取る)

11月24日(日)は「人権活動を支える主日」です。人権を守るための様々な活動を覚えて祈り、献金をお献げください。

洗礼おめでとう

ヤコブ 江川 悠介 (9月22日・秋田)

堅信おめでとう

ラケル 江川 江里
ヤコブ 江川 悠介
クララ 齋藤 昌子 (9月22日・秋田)
エレン 村田 敏子 (10月6日・フランシス)

永遠の平安

エレン 村田 敏子 (8月27日・盛岡)

マルコ 佐藤 榮孝 (9月7日・仙台)
ルシア 石川 千賀子 (9月10日・仙台)

11月逝去者記念聖餐式

11月5日(火)午前10時
於 主教座聖堂
司式 吉田 雅人 主教
説教 吉田 雅人 主教

主教 ライト 前川眞一郎

1953年11月1日逝去
宣教師 Miss Bessie McKim

1973年11月5日逝去
司祭 西村敬太郎

1971年11月7日逝去
伝道師 松下 一郎

1918年11月10日逝去
司祭 マルコ 植松 金蔵

1975年11月7日逝去
司祭 大野 要蔵

1938年11月11日逝去
司祭 ヨハネ伴 君保

1956年11月11日逝去
司祭 ガブリエル 稲沢 忠信

1988年11月12日逝去
司祭 今井 献

2007年11月27日逝去
伝道師 白石 村治

1929年11月28日逝去
女執事 Miss Anna Love Ranson

1969年11月28日逝去